

会 議 録

会 議 名	平成24年度 第4回 丸亀市自治推進委員会
開催日時	平成25年3月18日(月) 午後6:30~8:30
開催場所	丸亀市役所 本館2階 第3会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>鹿子嶋 仁 (会長)、大山 治彦、秋山 朋子、天野 裕子、高木 明美 (副会長)、岡田 宣明、秦 勉、田尾 マツ子、仁科 清、平井 博士、横田 富美枝、小阪 春南</p> <p>(欠席委員)</p> <p>砂古 敏之、杉江 邦夫</p> <p>(事務局)</p> <p>企画財政部長 大林 諭 (政 策 課) 課長 小山 隆史、副課長 渡辺 研介、担当長 吉崎 永吏 (地域振興課) 課長 近藤 克彦、副課長 丸西 由美、担当長 岸上 直美</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・協働に関する市民アンケートの結果について ・協働推進計画の検証結果について
傍聴者	なし
発言者	議事の概要及び発言の要旨
鹿子嶋会長	<p>会議について、丸亀市附属機関設置条例第7条第2項に「附属機関の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。」と規定されております。現在、委員総数14名中12名の出席でありますので、会議は有効に成立しておりますことを報告させていただきます。</p> <p>本日の議事は「協働に関する市民アンケートの結果について」「協働推進計画の検証結果について」の2点でございます。</p> <p>それでは、1点目の「協働に関する市民アンケートの結果」について、地域振興課より説明をお願いいたします。</p> <p style="font-size: 2em;">〔</p> <p style="padding-left: 2em;">地域振興課より、平成25年1月に実施した市民アンケートの調査結果について説明。</p> <p style="font-size: 2em;">〕</p>
鹿子嶋会長	<p>現在、丸亀市では第二次協働推進計画を策定中ということで、その基礎的な資料とするために、市民アンケートが行われたところです。本委員会でも「協働」という観点から非常に大きな関わりがありますので、この結果に対するご意見等よろしくお願ひします。</p> <p>この結果を見ますと、第一次協働推進計画を知らなかった方が84.7%ということでショックですね。周知方法として真っ先に思いつくのは広報紙だけでなく、何か別の手段を考えなければならない気がします。事務局はこの結果をどうお考えでしょうか。また、何か具体的に認知度を上げていく手段を考えられているのでしょうか。</p>

地域振興課	<p>協働自体があまり理解されておらず、協働という言葉を知っていても、その内容までは知らないというご意見もありました。こうした協働自体わからないことや、市の周知の方法が十分でなかった関係もあり、協働推進計画もあまり知られていませんでした。そのため、今後は周知の方法を考えていかなければならないと感じています。</p>
鹿子嶋会長	<p>「協働」というとかなり抽象的な感じであって、これを周知しろと言われるとなかなか難しいと思います。「協働そのものの認知が進んでいないから協働推進計画が進まない」と捉えるのではなく、私の個人的なイメージとしては、「協働推進計画をやっています。」ということを中心に押し出して、その中で「協働とはこういうものですよ。」と協働の中身をPRしていくほうがわかりやすく、現実的という気はいたします。</p>
天野委員	<p>資料 P82 の 200 番で「具体例をまったく知らず、協働で何をやっているのかわからない。」という意見があって、これはそのとおりだと思います。以前に具体例をお聞きしましたが、私も自治推進委員をやっているながら、その事例以外に具体例が浮かんできません。こういうことをしてきたという実績を広報だけでなく、小学生へのお知らせなど、前面にだしていくことが重要なのだと思います。</p>
秋山委員	<p>地域に「協働とは」といった説明を載せたようなパンフレットを配ったことはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>協働の説明だけを載せたようなものは配布したことはありません。</p>
秋山委員	<p>そうであれば、ここまで認知度が低いという結果が出たのですから、コミュニティや自治会ごとに「協働を知っていただきたい。」と回覧板でまわしてもらうのはどうでしょうか。そうすれば、皆さん目にしますので、今後こうしたアンケートをしたときに「知らなかった。」という意見は減るのではないのでしょうか。</p>
地域振興課	<p>資料 P24 【分析・考察】にも記載しておりますが、第二次協働推進計画を策定するにあたっては周知が最も大切だと思っています。市の広報やホームページ、チラシはもちろん、簡単な言葉や具体例、写真などを活用した周知や、市から地域に出向いての説明も必要かなと担当的な意見としては思っています。</p>
秋山委員	<p>活字だけよりは写真もあったほうがわかりやすいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>計画の手法は、今までですと市の職員だけで作って、何年後かに見直してという形でしたが、やはり市民の方がこういう計画が進んでいるということを知ったうえで、いろいろご意見をいただきながら進めていかないと、いくら中身の良い計画ができたように見えてもちょっとよろしくありません。これはまさにまちづくりの基本的な計画ですから、そのあたりは工夫しなければいけないという気はしますね。</p>

政策課長	<p>この第二次協働推進計画に関するスケジュールはどうなっているのでしょうか。</p> <p>4月から政策課に協働事業を所管する市民活動推進室を設けますが、来年度は第二次の計画を策定することが主な作業となります。また、現在の委員さんの任期である5月8日までに第一次計画の検証をある程度の形にし、抽出された課題などを次期委員さんに引き継いだうえで、来年度中には次期計画を策定できるよう進めていきたいと考えております。同時に、明らかとなった諸課題への対応についても検討していく必要があると思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>アンケート結果の問12「地域活動への参加状況」のところの【分析・考察】で、「若者の地域離れ傾向がみてとれる」とありますが、本当にこういった傾向は読み取れるのでしょうか。年代別のグラフで、30～39歳の年代の参加割合が急に伸びている状況から判断されたのだと思うのですが、たぶんこれは家庭をもったことをきっかけにして活動への参加が増えているということだと思いますので、これをもって若者の地域離れとするのはどうなのでしょう。過去にこういった若年層が参加していたけれど、参加しなくなったというデータがあればそれはそうなのでしょうけれど、年代的にそもそも地域活動への参加機会がないのではないかという気がします。</p>
天野委員	<p>確かに小学生や中学生は地域のふれ合い活動などもあって、地域のことを一番考える世代だと思いますが、それから卒業して社会人になった人たちに関する活動又は興味のある活動がないのかもしれない。</p>
秋山委員	<p>この棒グラフの年齢構成は、ボランティア協議会のボランティアの年齢構成と同じ状況で、20代が1名しかいない一方で、60代70代になると30名くらいになります。60代70代は地域のことやボランティアに関心がありますが、若い方はそういったことに興味がないのだと思います。学生の方になるとまた状況は違いますが。</p>
仁科委員	<p>端的にこういうことが協働であるということがわかれば意見もできるのですが、ただ出された資料を見て委員として意見するのは、少し難しい気がします。</p>
政策課長	<p>協働という幅が広く、限られた時間の中で実施内容のすべてをご説明するのはなかなか難しいということもあり、主だったものの説明となっています。これらやその他の詳細については、前回の資料等でもご紹介しておりますので、ご参考にしていただきたいと思います。</p> <p>新しい計画を作るうえで、具体的な取組に関する意見もいただいておりますが、まずは現在の協働の大きな課題や問題点の検証という意味で今回ご意見をいただいて、それらを絞ったうえで次期計画策定の際に審議を深めていただきたいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>アンケートを書かれた市民の方が、協働やコミュニティ活動に対して何をイメージしているかについては、おそらくアンケートP2やP3でキャラクターのふきだしの「協働</p>

	<p>とは」「地域の活動とは」といったことが手がかりになったのだと思います。</p> <p>しかし、協働という概念は、どこまで広げるのが難しいところで、この活動が含まれるかどうか分からないということはあったのかもしれませんが。</p>
天野委員	<p>資料 P42 のところに「専属職員」という記載があります。4 月から市の協働に関わる組織が変わるということですが、これは専属の職員を置くということなのですか。</p>
政策課長	<p>これまでは、地域振興課がコミュニティなどにおける地域活動を所管していたこと、また、NPO など地域に寄らない団体を所管し、その活動の支援にあたっているところが協働を所管する方が良いのではないかということで、第一次協働推進計画の期間は地域振興課が所管し、協働を進めてまいりました。</p> <p>第二次協働推進計画の策定にあたっては、自治基本条例を所管する政策課が、自治推進という観点からも総合的に協働を考えたいということで、政策課の中に「市民活動推進室」を設置いたしますが、その職員を専属とするかどうかはまだわかりません。</p>
大山委員	<p>アンケートの内容ではないのですが、今回のアンケートと集計に関して、地域振興課の職員 2 名が私の研究室に相談に来られましたが、これは非常に良いことだと思います。</p> <p>これまで、こういうのは外の業者に出す事が多かったと思うのですが、そうすると表紙だけ変わって質問やデータは同じというようなものが出てきます。今後、お金がなくなってきたときは、各担当課の職員がこうした調査をやって、その結果をいかすという形になって行くと思われませんが、こういった各課で行ったアンケートについて一元的に管理されているのかということが気になります。</p> <p>例えば、今回職員が努力して作られたアンケートのノウハウは他の課にきちんと伝わるのか、出たデータについて他の課でも使えるのか、そういった点について政策課なりどこかがきちんと管理したり、質問・集計の方法に関して研修をしたり、ノウハウを蓄積したりといったことをしていかないといけないと思います。</p> <p>情報を得るといことは自治の基本だと思いますので、アンケートの内容以前にその部分についてまず考えていただけないでしょうか。お金をかけてやるのですから、きちんとそれが使われるようにして欲しいのです。</p> <p>今回のアンケートはなかなか上手にできていると思いますし、個人的には「ご協力ありがとうございました。」の文字が一番大きくなったのはある意味象徴的で良かったと思います。自治を進めていくうえで、今後、情報を取る能力は大切になります。こういったノウハウの蓄積等は意識していただけたらと思います。事務局、いかがですか。</p>
政策課長	<p>各部署で計画等をつくる際に実施するアンケートなど、市民意見を取る場合の手引きについては政策課が所管していますが、その管理は各課が行っています。ただし、今回のように大きな数を対象としたものの場合には、庁議などの会を通じて全庁的に周知しており、情報自体は共有しています。これまでにも計画をたてる際、別の課で実施したアンケート結果を参考にすることはある程度出来ているとは思いますが、どこまでその情報が行き届いているのかについて検証する余地もあるのかなと思います。</p>

<p>大山委員</p>	<p>お金も時間もかかっており、それが無駄になってしまいますので、ある程度ではなく、そこはきちんとしていただきたいですね。今回はたまたま私がやりましたが、各課に対して同じ事を何度も教えるのは効率的ではありませんし、市としてももったいないですので、ルールとして他課や他市がやったデータをまずは見るということなどについてきちんとマニュアルで決めるくらいのことをやった方が良いでしょう。</p> <p>また、先ほど議論になったこの計画の認知度について、この値をパッと見ると確かに低いと思いますが、それでも、他市の同様の計画と比べて、あるいは丸亀市の他の計画と比べてどうなのかという議論も同時にしておかないといけないと思います。</p> <p>私はそもそもこういったものの認知度が高いはずがないと思っていますので、無理にそれを上げるのにエネルギーを注ぐことの優先順位の高さを考えると、場合によってはそこそこでいい可能性はあります。当然認知度は高い方が良いに決まっていますが。</p> <p>今回の調査による、いわゆるアンケート調査の教育効果によって、配られた方は「協働」という言葉を知ったはずなのです。そういうふうに少しずつ認知度は上がっていくものであって、たぶん今度は第二次計画の見直しするとき、今回の数字と見比べてどうか、あるいは男女共同参画プランだとかそういった他の計画と見比べてみてその伸び率がどうかということにはかなり意味があるとは思いますが、そういう意味で他のデータとつぎ合わせる必要からしても、情報の一元的な管理・リバイス（見直し）のし易さというのは必要かなと思います。</p> <p>個人的にはこれは公文書間の図書館機能だと思っているのですが、そういったことも含めて市役所力を高めるひとつの方法としていかすことを考えて欲しいですね。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>このことに関連してなのですが、今回のアンケート結果は市民の方にどのようにお知らせする予定なのでしょう。</p> <p>というのも、丸亀市の協働推進計画を約85%の方が知らなかったという結果は逆宣伝材料となりますし、せつかく3,000人の方にお聞きしたのですから、認知度が低いということを打ち出して危機感を煽るなど、結果は広報やHPなど、なんらかの形で報告した方が良いでしょう。</p>
<p>政策課長</p>	<p>計画等を策定した場合には広報紙に掲載しておりますが、こういったアンケート結果につきましては、市のホームページで主に公表しておりますし、このアンケートにつきましてもホームページに公開し、議会にも説明いたします。ただ、ホームページを見る方ばかりではありませんので、そういった方への周知方法について工夫は必要かと思えます。本市でもこれまでさまざまな協働が行われてきておりますので、次の計画においては、具体例を示したうえでの周知も大事なのかなと考えております。</p>
<p>天野委員</p>	<p>このアンケート結果は見やすくわかりやすいですし、これをまとめたのが職員の方だとお聞きしてすばらしいなと思いました。</p> <p>私は他の審議会にも参加しているのですが、そこは知らない間にコンサルタントが入ってこういう方向で進めていくというふうになったので、委員の中からも不満が生まれ</p>

	<p>た。市の決めたことだから仕方がないとは思いますが、コンサルタントにもお金がかかります。自治推進委員会ではこれだけのものが出来て良かったと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、議事の2番目の協働推進計画の検証結果について、地域振興課より説明をお願いします。</p>
	<p style="text-align: center;">（地域振興課より、市と提案公募型協働事業を行う10団体・市担当課の意見を取りまとめた調査結果、第一次協働推進計画の検証についての自治推進委員からの意見の集約結果、自治推進委員による各施策の評価について説明。）</p>
鹿子嶋会長	<p>いまの説明の中で、協働事業に関する団体側と市の担当側の意見があり、かなり両者の意識が違っていることが明らかになって面白いと思いました。例えば「公募型と市提案公募型のどちらが取り組みやすいか」という問いに関して、市の職員は圧倒的に市提案公募型を選択しています。どうもこの辺の理由は政策目標に沿った事業とするうえでは、公募型ではうまくいかない場合があるということをかなり気にしており、団体側にはそういった意識はあまりないということで両者の認識の違いがよくわかります。</p> <p>また、「今後の市との協働」というところで、職員側の意見として「現在の活動団体との意見を壊したくないため携わりたくない」とありますが、これは具体的にどのような状況なのでしょう。</p>
地域振興課	<p>協働事業を進めるにあたって意思疎通がうまくいかなかったことから、きちんと役割分担ができず、お互いに相手にここまでやって欲しいというところが折り合わず、関係がうまくいかなかったところもあるようです。</p>
大山委員	<p>それに関連して、すぐ下に「市側に過度に負担がかからないような仕組みが必要」とありますが、これはどういったことでしょうか。</p>
地域振興課	<p>これは、行政としては一定のところまでは分担すると考えて動いていたが、団体からあれもこれもと役割をまわされた結果、市が考えていたよりも負担が大きくなり、そういうことならあまり受けたくないということになってしまったのだと思います。</p>
大山委員	<p>どの程度という市側の基準自体が適切だったかどうかということもあって、それによっては確かにその通りという部分があれば、協働であればそこまではしななければならないということもあるかもしれませんので、その情報が欲しかったですね。市民側も市側もお互いに基準があってそれを調整することも協働です。互いに自分の基準を言いあっていると協働にならないので、そのあたり、気になるころではありますね。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、次に資料 協働推進計画の検証（自治推進委員意見取りまとめ）に入らせていただきます。</p>

<p>仁科委員</p>	<p>前は市側の自己評価でございましたが、今回は自治推進委員さんによる評価ということでございます。既にご意見をいただいている部分もありますし、今回はアンケートなど、参考となる情報も加わりましたので、それらを合わせながら評価していただくということになります。このことについて、ご意見ありますでしょうか。</p> <p>自治推進委員の評価ということですが、項目内容について、この会議の最初の頃はまだ細分化されていて意見を述べることもできたのですが、協働がテーマになってからは段々その範囲が広がって行って、意見を述べて下さいといっても、具体的につかむことが出来ずにどう評価すべきかわからないので、この評価は委員に酷でないかと思いません。</p> <p>項目内容ひとつひとつの内容がよくわからないし、2回ほどの説明で評価すると、形式的なものに終わってしまうのではないのでしょうか。大切なお金と時間をつかって審議会をするのですから実のあるものが欲しいです。</p> <p>私自身としては、この段階での評価は無責任なものしか出せないような気がします。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>実施内容のところに、これまで丸亀市がやってきた内容がある程度書かれておりますが、内容によっては確かにわかりづらい、つかみづらいという項目もありましょうし、具体的な項目として考えられるものも含まれていると思われまますので、例えば、自分では判断しかねる、評価しづらいかもしれないというものについては保留にさせていただくという手もありますね。</p>
<p>仁科委員</p>	<p>そういう考え方もありますが、ひとつひとつ理解できるように説明したうえで評価するという必要なのではないでしょうか。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>私が先ほど「判断しかねる、評価しづらいかもしれない」と言ったのは、こういうことをやってきたというのはわかるのだけれども、それが果たして十分なのか、あるいは他にやるべきことがあったのかどうかなど、項目によっては個人的に評価しづらいところはあるかも知れないという気はしています。</p> <p>他にご意見はどうでしょうか。</p>
<p>地域振興課</p>	<p>前回会議の時の資料で、各項目・年度ごとにどういったことをしてきたかはお示ししております。そういったものも参考にさせていただけたらと思います。</p>
<p>大山委員</p>	<p>今回の資料が、これまで改善して欲しいと要望してきたことを反映してここまで来たという点について私は評価しております。それがあってはじめて私たちに評価を依頼しているということで、そういう意味では今までにないステップにあがったと考えることもできます。一方で仁科委員が先ほどおっしゃられたことももったいなことであって、本来、委員会のような段階を踏んでから本会議でやるべきものを、本会議で一気に全部をやっているから大変な感じになっています。皆がこれをきちんと理解して評価するのが一番良いのですが、急な提案ですので難しいかもしれませんが、次善の策と</p>

	<p>して、例えば各委員さんが一項目ずつ担当して、それについては職員に詳しく聞いて責任を持って評価するという方法も考えられます。</p> <p>これは、ステップがあがってきたために出てきた問題だと思います。今まではもっとわからない資料を出されて、「これでよろしいですか？はい、よろしいですね」という委員会であったのに、今回は、はじめて具体的に「市でも自己評価しなさい、課題を出しなさい」と、新たに取り組んだからここまでできたのです。現在の委員さんには申し訳ないですが、次回の委員会には絶対に引き継がれるものであると思います。つまり今回こういう意見が出たのであれば、次やるときはこういう形はとらずもう少し時間をかけてやるということであれば、ここで委員さんにご発言いただいたことは無駄ではなかったと考えられるのではないかと思います。そういったことで、各委員が1項目ずつつけるというやり方は本来的ではないですが、今回はありかなという気はいたします。</p> <p>もう一点、先ほどのアンケートのノウハウと同じで、いろんな委員会があつて、いろんな評価の方法をやってきたはずですが、しかし私たちは、他の委員会がどうやって評価してきたかを知りません。そういうことを私たちも共有したいですし、ある委員会が頑張つてやり方を編み出したのであれば、それをやるかどうかは別として、他の委員会もそれを共有できるシステムにしていかないと、せっかく今回、委員の皆さんがこれだけ意見を出してくれたにもかかわらず、この委員会が終わると丸亀市から消えてなくなってしまうのはもったいないと思いますが、政策課としていかがお考えでしょうか。</p> <p>今回の評価方法については、地域振興課と相談したうえでこのような形でお願いしているのですが、例えば総合計画の進捗状況の評価などについて委員にお願いしても、同様に難しいというご意見はいただいております。ただ、できるだけ資料はお出しして説明させていただくということで協力をお願いしてきており、こういった評価方法を他にもいくつか実施しておりますことから、今回もそれを参考にさせていただきました。</p> <p>また、ノウハウの蓄積・管理につきましては、今後、必要となるものであると考えますので、その方法等も含めて検討してまいりたいと考えております。</p>
政策課長	<p>今回の評価方法については、地域振興課と相談したうえでこのような形でお願いしているのですが、例えば総合計画の進捗状況の評価などについて委員にお願いしても、同様に難しいというご意見はいただいております。ただ、できるだけ資料はお出しして説明させていただくということで協力をお願いしてきており、こういった評価方法を他にもいくつか実施しておりますことから、今回もそれを参考にさせていただきました。</p> <p>また、ノウハウの蓄積・管理につきましては、今後、必要となるものであると考えますので、その方法等も含めて検討してまいりたいと考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>評価のやり方についてご意見がありましたが、14項目すべて評価するというよりは、1項目だけを責任持って担当していただいて、かなり突っ込んで資料などを使いながら評価するという方法、若しくは最初に考えられていたとおり全項目を評価するのがいいのか、ご意見等なければ多数決をとりましょうか。</p>
大山委員	<p>多数決の前に意見を聞いてからの方が良いのではないのでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>では、もう少しご意見をお伺いできればお願いします。</p>
天野委員	<p>わかる項目だけ記入するのでもいいと思います。</p>
大山委員	<p>私の提案した方法は、実はもう少し早く分解しておかなければならないのです。つまり、これがここに出てきた時点では分解されていて、そのうえで担当者を決めるという</p>

	<p>やり方をするべきものなので、今回急に出てきて今からというのが時間的に難しいということもわかります。ただ、私個人で言うと、今回は全員が今の状況で全ての項目を評価することについては、致し方あるまいと思っています。良いとは思いませんが、今までに比べるとずっと丁寧にやろうということでここまで来たので、そこを評価しようと思います。ただし、仁科委員が言われるような問題も出てきたのですから、今回は会長が言われるように書けないところはしょうがないとしても、次期はダメでしょうということです。そういう意味では、附帯決議というように取っていただいても良いのかなと思います。実際に自分のことで考えても、全ての項目についてしっかりと評価しようと思えば1ヶ月は必要だと思いますし、実質的にやろうと思えばそういったことも今後は必ず必要になってくるだろうということです。</p>
鹿子嶋会長	<p>仁科委員もご心配されていたように、議論が上滑りして深いところまで入っていけないのではないかとありますが、いろいろと項目があるなかで、ご自身で関心をもたれたり、関わられたりしている項目に各自で温度差もありますので、関心があるところで少し調べていただいて、こうなっていますという話をさせていただいた上で意見を集約した方が中身も深くなるということは確かにそのとおりだと思います。今回のやり方では分担作業まで手が回らずに中身の深いところまでは入っていきなかつたという部分がありましたので、今後は、今回の作業を反省材料にしてもう少し具体的な話ができるような体制にすべきということで、これは貴重なご意見だと思います。</p> <p>そういうことで、今回の評価は今までにいただいた資料を参考にしながら、14項目について一応評価していただいて、評価しづらいとかよくわからないということを無理に評価する必要はなく、そこは飛ばしていただいてもかまわないと思うのですが、そういう方向性でよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、一応締め切りは3月29日ということでよろしく申し上げます。</p> <p>以上で本日予定しておりました議事は終了いたしました。事務局の方からその他として何かありますでしょうか。</p>
	<p style="text-align: center;">(事務局より、香川大学との包括的連携・協力に関する協定の締結、商店街の学生との協働について紹介し、次回の会議について、協働推進計画の検証結果がまとめ次第案内することとして説明。)</p>
鹿子嶋会長	<p>会議の日程について話がありましたが、およそ4月22日から26日の週になるのかなという感じですが、また日程については事務局と相談させていただきます。</p>
政策課長	<p>香川大学との包括連携協定につきましては、2市3町で形成した定住自立圏の圏域と香川大学との協定となっており、こういったことをきっかけに学生とさまざまな連携を探っていきたいと考えております。また、圏域内には四国職業能力開発大学校、四国学</p>

	<p>院大学などもございますので、そちらの方も話を進めております。本市としては、こういったことが協働の新しい視点としても重要であると思っていますので、またよろしくをお願いします。</p>
<p>大山委員</p>	<p>今の説明に関連して、香川県の大学の特殊性を理解しておいていただきたいのですが、香川県の大学は全体的に小さくて、ひとつの大学ですべての学問の領域を持っていません。例えば国立岡山大学だけである程度は包括するのですが、香川県の場合は国立の香川大学と他の私立大学で学部や学問領域を分け合っているところがあります。</p> <p>ですから、実は全部の大学と手を組まないとはなりませんので、他の県とは明らかに状況が違いますし、それに関しては知っておいていただいて、特に大学に関しては全部でひとつとだけ思っていたらと思います。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>香川県は面積が狭いこともあって連携はそんなに難しくないでしょうし、学生さんはやはり学校の中に閉じこもっているよりは社会に出たほうが良いですね。最近は街なかカフェを学生さんが運営して地域を活性化するなどしているという自治体もできていますし、是非学生さんを活用していただきたいと思います。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>今回評価をお願いしております計画を所管する地域振興課による自己評価がBやC、Dとなっておりますが、これは評価している担当課自身が一番つらいと思います。例えば福祉や子育て、教育など専門的な分野で、その課自身が取組んでいける分野であればもっと良い結果も出るのでしょうかけれど、やはり全庁的な取組でお願いしていく立場にある地域振興課で評価するのはしんどいと思いますし、これを委員さんをお願いするのももっとつらいと思います。</p> <p>第一次協働推進計画自体は素晴らしい計画だと思っておりますし、非常に新しい取組としてやってきましたが、それがなかなか連携もとれていなかったという点もあると思います。委員さんが今回評価していただくにあたっては、委員さんの気持ちを書いていただいて、われわれも来年度から政策課に市民活動推進室を設置し、一からスタートしなければならないと思っておりますのでまたよろしくをお願いします。自治基本条例と同じく、協働につきましても、全般的なものとして、少しでも市民の方に理解していただいて、それぞれの分野で頑張っていたらと思っておりますので、これからもご協力よろしくをお願いします。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>評価が低いというのは、もっとやれることがあるはずだという志の表れだと思っています。われわれもなんとかうまくいく方法がないかということで知恵を出し合っていきたいと思います。</p> <p>それでは、以上をもちまして、本日の審議会を終了いたします。お疲れ様でした。</p>